

## 研究成果発表会を開催しました！

8月7日に「令和7年度（2025年度）農業研究センター農産園芸研究所、生産環境研究所及びアグリシステム総合研究所合同成果発表会」を開催し、作物（水稻）、花き、野菜（栽培、鮮度保持）、病虫害、土壌環境の分野、合計14成果について発表しました。



9月11日に「令和7年度（2025年度）熊本県農業研究センター果樹関係研究成果発表会」を開催し、果樹研究所、球磨農業研究所、天草農業研究所の研究成果、合計7成果について発表しました。



## 目次

- P2 R7公表 農業の新しい技術①  
原種鶏における増体性遺伝子（CCKAR）の優良型への  
固定による肉用鶏天草大王の改良
- P3 R7公表 農業の新しい技術②  
褐毛和種雄牛「幸弦光」の選抜
- P4 こんな研究に取り組んでいます！～農産園芸研究所 野菜研究室～



## R7公表 農業の新しい技術①

## 原種鶏における増体性遺伝子（CCKAR）の優良型への固定による肉用鶏天草大王の改良

## 研究のねらい

鶏の増体に関わるコレシストキニンA受容体（CCKAR）遺伝子は、A/A型 が優良型とされ、A/C型およびC/C型と比べ、増体性が優れています。そこで、当所で飼養する「種鶏場へのヒナ供給用原種鶏群（原種天草大王および九州ロード）」のCCKAR遺伝子を優良型に固定することにより、生産農場における肉用鶏天草大王の増体性向上に取り組みました。

## 研究の成果

- ヒナ供給用原種鶏群のCCKAR遺伝子を優良型に固定し、これにより10か月齢時の体重が、固定前と比べ増加しました（図1）。
- これに伴い、種鶏場を通じて生産農場へ優良型の肉用鶏天草大王が供給されるようになりました。

今後、生産農場では、増体性の向上による売上増加が期待できます。

## 留意事項

改良効果を最大限に発揮するためには、適切な飼育環境や衛生対策の下、飼養することが重要です。

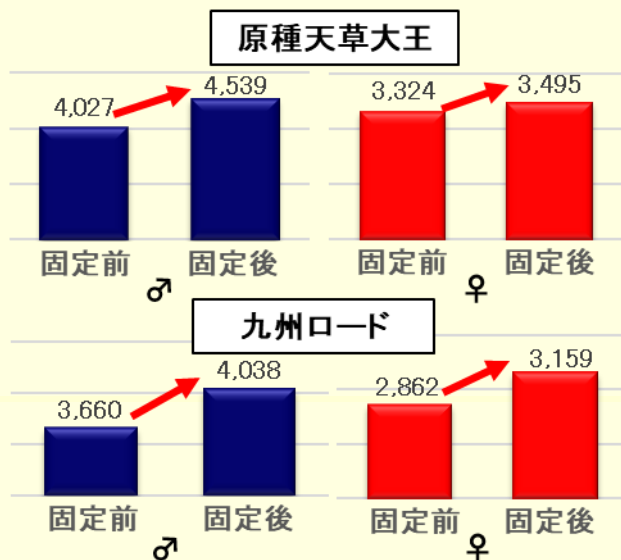


図1 原種鶏群の10か月齢時体重の推移（g）

## ☆天草大王の骨格標本☆

畜産研究所では、くまもとの地鶏「天草大王」の祖父母にあたる原種「天草大王」を飼養しています。国内最大級の鶏とも称される「天草大王」の骨格を明らかにするため、帝京大学福岡医療技術学部が骨格標本作製。この度、寄贈いただきました！いただいた骨格標本は、今後、研究等に活用していきます。



図2 肉用鶏天草大王の生産の流れ



## R7公表 農業の新しい技術②

## 褐毛和種種雄牛「幸弦光（ゆきつるみつ）」の選抜

## 研究のねらい

熊本県で昔から多く飼われている褐毛和種について、その牛肉の生産性・品質向上を図るため、優秀な種雄牛を選抜しました。

## 「幸弦光」の特徴

本牛は、当時、脂肪交雑の育種価が県内上位10%以内（当時）とトップクラスの母牛に、ロース芯面積と脂肪交雑に優れた「幸泉」を交配し作出了。現場後代検定では、ばらの厚さが去勢で8.5cm、全体平均で8.2cmといずれも歴代トップクラスの成績であり、「幸泉」の後継牛として肉量の面で改良への貢献が期待されます。



## 【産子の枝肉（去勢）】



枝重	569.4kg
ロース	64cm <sup>2</sup>
ばら厚	9.4cm
BMSNo.	5
等級	A-4

## 幸泉

(高92)

第6さかえ  
(育高911)

## 波泉

(繁殖116)

ゆきみ☆☆  
(育高739)

## 第四弦光

(高88)

第3さかえ  
(繁殖16894)

## 光玉波

(高80)

第十四光重  
(高83)第四光重  
(高82)第三光重  
(繁殖29)

## 【現場後代検定の成績】

頭数	出荷月齢	枝肉重量	ロース芯面積	ばらの厚さ	皮下脂肪厚	歩留基準値	BMSNo.	肉質等級(3等級以上)
去勢 12 頭	25.2	524.5	57.8	8.5	3.2	73.1	4.17	91.7% (11/12)
雌 7 頭	25.4	477.9	53.7	7.8	3.1	72.9	3.86	57.1% (4/7)

品質	程度	-1	0	1	2	3	4	程度	SBV
枝肉重量	小さい							大きい	0.33
ロース芯面積	小さい							大きい	0.04
ばらの厚さ	薄い							厚い	1.29
皮下脂肪の厚さ	厚い							薄い	0.42
脂肪交雑	少ない							多い	0.30



## こんな研究に取り組んでいます！

## ～農産園芸研究所 野菜研究室～

野菜研究室では、くまもと農業の未来発展につながるイチゴのオリジナル品種の開発や、生産量全国1位のトマトの燃油使用料を削減する技術の開発、ミニトマトの品種選定や単収向上のための生産技術の開発、ナス「PC筑陽」の品種特性を最大限発揮する栽培技術の確立などに取り組んでいます。全国屈指の産出額を誇る熊本県の野菜栽培に貢献できるよう日々研究しています。



熊本県オリジナルいちご  
**ゆうべに**  
Taro & Ziro & Saburo  
**10th ANNIVERSARY**

©2010熊本県くまモン

©2019JA熊本経済連ゆうべに



←定植直後のトマト苗に根回しかん水している様子。  
いよいよ試験が始まります。



整枝方法等を試験中の「PC筑陽」。



↑ 定期的に勉強会を開催し、担当品目以外の研究状況も把握。意見交換を行っています。（写真：イチゴのほ場）

↑ミニトマト選果中。各試験区の果実をサイズごとに  
取りまわします。



熊本県農業研究センター

本紙に関するお問い合わせは、企画調整部企画情報課までご連絡ください。

〒861-1113 合志市栄3801  
TEL 096-248-6422 FAX 096-248-7039  
E-mail noukenkikaku28@pref.kumamoto.lg.jp



ホームページ



X（旧Twitter）



視察申し込みはこちら